

当番校挨拶

駒澤大学
学長 各務 洋子

私立大学図書館協会第 85 回総会および研究大会の開催にあたりまして、当番校を代表して、一言ご挨拶申し上げます。

駒澤大学は、1974 年（昭和 49 年）に当番校として第 35 回総会を開催して以来、今回、50 年ぶりに総会・研究大会の当番校を務めさせていただきます。この「私立大学図書館協会総会・研究大会」は今回が 85 回目ということで、ここまで回を重ね、共に学び、共に考える場をつむいでこられた皆様の熱意に敬意を表したいと存じます。そして本日、この総会、研究大会の開催にご尽力いただいたすべての関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

50 年前に駒澤大学が本会の当番校を務めました頃と時を同じくして完成した本学図書館は、昭和・平成・令和の時代を経て、2022 年 7 月に閉館し、同年 10 月に、開放感あふれる大きな窓とレンガ調タイルが特徴的な新たな図書館が開館しました。この図書館は、地上 6 階・地下 3 階の構造を持ち、中央には「智の蔵」と称するスペースを設け、「智を蓄える」「智をつかう」「智をつなげる」をコンセプトに書架を集中配置しています。

天井が高く明るい閲覧席のほか、ゼミ活動などで学生が利用できる交流スペースを設け、また研究や学修に没頭したい利用者向けに個室感のある閲覧席を設置するなど、多様な学修スタイルに応じた図書館となっております。

さて、「大学図書館」は、知識の宝庫としてだけでなく、学術研究と教育の支援の場として、また地域社会との交流の拠点として重要な役割を果たしているといわれております。本日の研究大会のテーマである「大学図書館と諸機関との連携」は、この役割をさらに強化し、新しい可能性を広げるための重要な機会となります。

図書館は他の大学、研究機関、公共図書館、そして地域社会や産業界との連携を通じて、より多くの情報資源とサービスを提供することができます。このような連携は、学生や研究者にとっても、新しい視点や研究機会を提供し、知識の共有と発展を促進します。

さらに、デジタル化が進む現代において、図書館の役割も変化しており、電子リソースの共有やデジタルアーカイブの構築、オンラインでの共同研究など、様々な新しい取り組みが行われています。これらの取り組みは、今後、多方面とのさらなる連携によって、強化され、大学図書館の未来を形作る重要な要素となるでしょう。こうして、情報の受発信の技術革新が進めば進むほど、私立大学における本協会の果たす役割は、ますます増すばかりであると確信しています。

私は 2021 年に学長に就任し、「DX (デジタルトランスフォーメーション)」と「ダイバーシティ」の推進を軸に、10 の施策を掲げてまいりました。開校から 142 年、駒澤大学の前身である「学林」の設立までさかのぼると、実に 430 年以上の歴史を持つ本学において、本日ここでご挨拶させていただく機会に恵まれ、その重要性を再認識させられた思いでございます。

最後に、この研究大会が、これからの大学図書館とその在り方を考えるための貴重な機会となり、参加者の皆様にとって有益な知見とインスピレーションをもたらす場となりますことを願っております。